

横浜事務所

〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20

TEL: 045-848-3761 FAX: 045-848-3742

Email: contact@kyoken.org URL: <http://kyoken.org/>

宇奈月自立塾

〒938-0282 黒部市宇奈月温泉 5509-16

TEL: 0765-62-9681 FAX: 0765-62-1120

にいかわ若者サポートステーション

〒938-0037 黒部市新牧野 103 ファーストビル 3F

TEL: 0765-57-2446 FAX: 0765-57-2447

Email: contact@nsapo.org URL: <http://nsapo.org/>

政治家は目を覚ませ！

今年の夏は猛暑、そして台風と長雨、天候不順は、葉物野菜に影響がでる。もっとも、台風の被害が大きかった九州、東北、北海道に住む方達はそんなのきなことでは言われてられない。被害を受けた地域が一刻も早く元の現状に復帰することに期待している。

2005年、政府による「若者力」支援から始まった、国の肝いり事業の一つであった「若者自立塾」。その後、たったの5年で政権交代の後押しもあり、民主党政権によって、いの一に事業仕分けされた。仕分け当時、事業団体は28施設、10年経過した現在、24時間体制で合宿(共同生活)を行っているのは、若者自立塾が始まる前から合宿型自立支援を行っていた老舗団体の5、6施設に過ぎない。

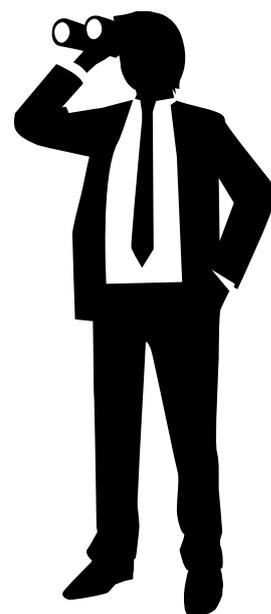
一泊平均5,500円程、(ひと月165,000円、年間200万弱)宿泊は勿論、三食、生活指導と相談&アドバイス、労働観の醸成と就労訓練、就労体験、保険代、市内交通費等、込みの費用である。食材代、水道光熱費、施設維持費、訓練費等の経費を入れたら、儲けどころか、人件費さえ出ない。これでは相当の覚悟と意気込みと情熱がないとできない。私大理工系大学年間授業料とかわらない。高校新卒の程度の年収と同じである。自立して生きて行くために必要な最低コストである。

家にいれば、食費と水道光熱費5万円程度(年間60万)で済む、合宿支援は金が掛かるという方がいるが、

その人が30代、40代になっても自立できなかつたら莫大な費用がかかることの発言だろうか、不登校もひきこもりもまだ一過性のものに過ぎないという認識が根づよい。

しかし、今、騒がれ出した。80-50問題、80代の親と50代の子どもが暮らす家族、親の年金だけだと、貧困や生活困窮が起る。さらには、親の死後どうするか？生活保護者をこれ以上、増やせない国の懐事情、かと、言って、年間200万の出費は、貧困家庭や高齢化した年金生活者には厳しい金額である。

公的扶助か労働し納税か、どちらがよいか、誰が考えても明らかである。自立効果の高い合宿型支援、やはり公的支援が必要である。



人が育つということ

NPO 法人教育研究所 所長・教育コンサルタント 牟田武生

昭和時代や平成10年ぐらいまでは「学校に行きたくても、不安や緊張のあまり様々な身体症状起り、行けない」不登校児童生徒が多かった。

不登校やひきこもりが増え、一般化してくると、それ以外に学校判断では、無気力と判断される児童生徒が増えてきた。

家庭では、いじめがある学校にはやれない、集団や組織に無理に合わせることはない、義務教育なら行かなくても卒業できる、また、高校は安易に卒業できる通信制高校が世間で認知されたから希望すれば高校は、いつでも卒業できる。

この子の個性を尊重したい。と、考える親が増えてきた。しかし、基本が出来ていない個性は、社会では認められないのだが…。

自由に育て(実際は放任と過保護)だが、この子の個性を伸ばしたいと願う親は多い。また、反対に小3ぐらいから進学塾に通わせ、受験勉強さえしていれば、「よし」とし、常に子どもに叱咤激励を飛ばし、塾側の指導も己の塾の実績作りの為、中高一貫の有名学校に行かなければ、「人生負組」と、吹聴する。

そして、たとえ、見事合格しても、思春期に入り、皆、勉強だけはよく出来る子の中で、切磋琢磨され、「何の為に勉強するのかと疑問に感じ」良い大学に入るためと、応える大人達にうんざりして、勉強も身に入らなくなり挫折をし、高校中退し、他に何も出来ないと感じ、俺の人生終わったと、ひきこもる若者もいる。

子どもが、10年位そのままひきこもり、20代になると、親もそのような子を抱え、今後も生活していくとなると、自分達の老後が心配になり、相談に来る。

子どもがひきこもり、親の育て方を身をもって、長年訴えてきた筈なのに、何も気づかずと言うか、親として成長できなかったのか、マニュアル対応の仕事ばかりしていたから思考がそうってしまったのかわからない

が、一言で直るや単純なプログラムで対応可能と思っているようである。

当の本人達は、常識としての社会性がない、社会の中で存在する上下の人間関係がわからない、空気やその場の雰囲気を読めない、思考に偏りがあり、気が弱いため、それをカバーするためか、プライドが非常に強い、ゲームやアニメなど好きなこと以外は、何も持続する気力と体力がない。

ギリシャ時代の哲学者アリストテレスの言葉「人間は社会的動物である」真実である。彼らの言うポリス(都市国家)の中で育つのである。先日、ひきこもりの全国大会のシンポで元当事者の青年は「ひきこもる必要性はあるが、長引かせる意味はない」と言った。その通りである。

人が育つことは、単純なことではない。親の井の中の狭義な考えや思いこみだけでは育たない、育てないから、発達課題のやり直しとして、一時時間を止め、不登校やひきこもったり、退行したりする。それへの対応が上手いかなないと、10年、20年、30年、40年とひきこもる。そして、長年、ひきこもりの相談にのってきた臨床心理を専門とするカウンセラーは「ひきこもりの人は社会復帰しても、社会の理解が進んでないから再発していくと言う。これは、言語という空想概念のカウンセリングだけでは、彼らが抱えている「生きる」問題は解決しないからである。

やはり、絶対的に必要なのは、メインとしての家族が機能しないなら、サブファミリーとしての様々なことを学ぶ共同生活の場を通して課題を克服するために、時間を掛けた育ちなおしの丁寧な生活体験だと、最近、ますます、核心してきた。

USAやEU諸国の一部の地域では、国(州)の予算を使い、すでに始まっているのだが…。

牟田武生ブログ 2016. 10. 12より転載

宇奈月自立塾開塾 10年を経て～寮長の個人記～

暗雲から転換、そして未来へ編

宇奈月自立塾 寮長 牟田光生

現場では良い案や良い策がないままでしたが、カナダやタイへの留学事業が少しずつ始まって来ました。私もカナダ・バンクーバー見学に行こうとした時に2011年3月11日の東日本大震災があり、私は西日暮里で京成スカイライナーに乗ろうと切符を買った直後に揺れました。その時は何もわからず直ぐにタクシーを拾い、西日暮里からだともものすごくお金がかかるので乗合の人を声をかけ探し、韓国の方と成田に向いました。途中携帯が繋がるようになり、成田発着が全便欠航だと分かり、途中タクシーを降り佐倉でなんとかビジネスホテルに泊まりました…もう5年前になります。

自立塾自体、資金的に苦しい状態が続き、固定資産税の滞納だけで700万弱…AHEビルの返済もまだ残っており、本当に本当に後が無い状況でした。

転換を迎えたのが2013年1月です。私ごとですが、結婚をし、なんとかこのまま潰れるわけにいかない、藁をも掴む気持ちでした。

2013年度合宿型の復活をサポート事業の中で行うとの情報を得て、丁度その頃次年度のサポート募集が行われており、100箇所から一気に増設予定との事、各市町(黒部・魚津・入善・朝日)に推薦状の依頼やお願いを集中的に行い、ギリギリのギリギリで滑り込むような形でいかわサポートの受託にこぎつける事が出来、これで合宿訓練の公的な復活を一時的に遂げられる…と胸をなでおろしました。

事業としては「宇奈月自立塾」の運営と、2012年度から「富山県生活保護者の為の居場所づくり事業」新たに2013年度から「いかわサポーステーション」の運営も行って行く事になりました。

支援の枠組みも不登校・ニートの支援から生活保護者の支援は稼働年齢(15～60歳)まで、と大変幅広く

なり、知識やスキル、生活保護法等を勉強していく事になり、忙しいながらも守備範囲が広がりより大きな支援が出来る事に楽しさとやりがいの物を感じております。

今宇奈月自立塾では新たに2017年1月から「自立援助ホーム」の受託や出張カフェ「ルンルンカフェ」事業等新たに児童福祉の分野や生活困窮者事業を行っております。私が考えるに合宿型の支援は丸抱えで出来るので大変さはありますが、本当の意味でなんとかなります。就労に物凄い壁と恐怖を持っている方も居られますが自然と合宿生活に馴染み、人に必要とされ、自分自身でも一生懸命やる事で人は良い顔になっていき成長していきます。

今の日本では希少な支援方法になっておりますが、「共同生活型自立支援機構」と言う全国組織の団体も立ち上げて行きます。支援者も利用者も希望が持てる支援をこれからも行っていきたいと思っております。

(終わり)



北陸初の「自立援助ホーム」と生活困窮者支援

宇奈月自立塾 寮長 牟田光生

皆さん、自立援助ホームをご存じでしょうか？

自立援助ホームとは義務教育終了後 15 歳から 20 歳までの家庭がない児童や、家庭にいない児童が入所し、自立を目指す家である。

引用：Wikipedia「自立援助ホーム」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/自立援助ホーム>

全国に約120箇所位あるのですが、北陸にはありませんでした。それを今回教育研究所が宇奈月自立塾の4F部分を使用し、運営する事になりました。

なぜか？

実は歴史があります。

宇奈月自立塾ではAHEビル(現在の宇奈月自立塾の事)を2008年に購入し、丁度その年の暮れに年末年始派遣切りの受け入れをAHEビルで行い、生活困窮者(派遣切り)の支援に携わり、2009年の年明けには地元黒部JCに頼る形で就職相談会を行った。衣食住の支援から就労まで繋げた支援を行った。

その後「富山県生活保護者の為の居場所作り事業」を2011年から受託し、生活保護受給者の社会参加や復帰を今までで約20件程支援してきた。その中でここ2年位児童養護施設出身者の若者が生活保護に陥るケースを何件か見て支援してきた。

「富山県生活保護者の為の居場所作り事業」だけでは予算に限りがあり、大人数の支援は出来ない、しかし困っている若者が居る。

なんとか出来ないか？

そこで自立援助ホームの申請に至りました。

児童養護施設を出た後の子どもたちがその後、どう現代の社会で生きて行くのか？また、経済的に困窮した時や病気等の時にいかに切り抜けるのか？その為に

も自立して社会生活を行う為の社会資源等の知識を身につけてもらい、反社会的な行動や団体に頼らず自分らしく希望が持てるよう自立して生きて行ってもらいたいと考えております。

他にも、月一程度で児童養護施設に訪問しお茶でも飲みながら児童養護施設退所後の事を児童達に考えてもらう「ルンルンカフェ」(現在施設側と児童相談所には申請した所)を11月から行っていきます。

より一層支援の充実を図る為にも、貧困等の困窮状態に陥った事後の対処だけではなく、これからは予防的な観点も考える必要があると考えられます。

これからの支援をどうぞよろしくお願い致します。



共同生活訓練(集中訓練)と非認知能力

宇奈月自立塾 寮長 牟田光生

にいかわサポステでは10月3日から宇奈月自立塾での集中訓練が始まっております。

合宿型の訓練ですが、一体通所と何が違うのか？は想像つきやすいと思われそうですが、一体どんな効果があるのか？

ここに注目し考えていきたいと思えます。

共同生活(合宿訓練)は非認知能力を向上させる絶好の機会、自己肯定観の再構築の場でもあります。

非認知能力とは、学力やIQ等の今までの主な学校での評価になっていた認知できる能力又は基準とは違い、意欲・協調性・粘り強さ・忍耐力・計画性・自己認識・感情の自己抑制・対人スキル・交渉術・共感力・他にAQ・MQ・CQ・さらに性格の5因子等の様々な今まで測られなかった能力の事を言います。

非認知能力も自己肯定観も幼少期の関わりが重要と色々な本を見ても書いてありますが、我々の所に相談に来る方は幼少期をとっくに過ぎております。

もう手遅れで遅いのか？

そんな事はありません。

キーワードは「教わる」そして「学ぶ」です。

自分で共同生活をしながら様々な事を教わり学んでいく事が重要です。

最初は人やルールに慣れ、洗濯や掃除に慣れ、時間の使い方が上手くなり、体験を通じ職業的なスキルに触れる。就職を目指す「集中訓練」ではここまですですが、その後就職しながら宇奈月自立塾に残る若者は「仕事をする」ことで自分で家賃・生活費・おこずかいの管理をし、お金を貯めながら本当の意味での自立を目指す事になります。

もちろん、最初は皆共同生活に慣れません。

しかし、そのまま残る若者は共同生活をし、働いている状況が当たり前になります。

他の塾生と一緒に生活をし(伴走)、人間関係の構

築をし、人間性や努力を認めポジティブフィードバックをし、就労を通じて外部にも給与と言う形で評価され、最後は自ら学ぶ力を付けさせる。

まさしく非認知能力を向上させるのに絶好の場所ではないでしょうか。

また、非認知能力が向上すれば徐々に自分自身に自信が持て、徐々に自己肯定感も高まっていきます。

それが共同生活(合宿訓練)の良さです。

今後、様々なケースを検証し、実際にどれだけの効果があるのかを合宿型の支援を行う団体の全国組織「共同生活型自立支援機構」(現在立ち上げ段階)で数値化していこうと考えております。

尚、我々の集中訓練は12月スタート(3カ月)を考えております。定員は5名です。皆さまにご参加をお待ちしております。



インターンシップ学生との支援状況について(前編)

国際事業部総合コーディネーター 牟田吉彦

今年度の七月から宇奈月温泉では海外からのインターンシップを受け入れています。

具体的には観光サービスを学んでいるタイと台湾の学生達が宇奈月温泉内の各旅館で就労をして、日本の文化や語学、接客サービスの習得を目指し、七ヶ月間の研修生活をしています。

現在NPO法人教育研究所では、タイのバンコクにあるサイアムデュラキット工科大学の学生16名の身の回りの世話をしており、私が責任者として彼ら学生達と一緒に宇奈月自立塾の隣にある施設、北日本タスク所有の旧若者自立塾(現タイ研修寮)で共同生活をしています。

彼らと共に共同生活をして一番苦勞している事は、やはり言葉の壁です。

学生さん達はこちらに来る前にタイの学校で日本語の授業を週に2回、1年間学びまして、ひらがな、カタカナはある程度読む事が可能ですが、漢字を読む事ができません。

漢字が読めないと日本で生活する全てにおいて苦勞をしてしまいます。

これは我々日本人がタイ文字を読めずタイで生活し苦勞する事と同じ事だと思えます。

私は6年前に父と兄と一緒にタイのバンコクに旅行に行ってから、タイという国の文化や1年中暖かい気候、日本とは全く異なる考え方や、自由な生き方がとても好きになり会社を勤めながら週に1度タイ語の学校に通い、まとまった休暇があれば1人でタイへと旅行へ行き、5年間タイ語を学び、簡単な会話は出来るようになりました。

しかし、まだまだ勉強不足で、学生さんが分からない言葉があれば迅速に答えられるよう、常にスマートフォンのタイ語の辞書を調べながら生活をしています。

学生さんの中には宗教上の理由でハラールの人もいます。

彼らと一緒にスーパーへ買い物に行き、売っている食品の簡単な説明や、食べられない物があるか、ないかを教えてあげたりしています。

他には病気や怪我をしまい、病院で検査をしなければいけない学生さんを車で送迎してあげて、言葉が通じないので医者と彼らとの通訳をして安心してスムーズに検査が受けられるよう、励ましたりするのも日常生活のひとつです。

学生さん達の日本での生活は決して楽ではありません。旅館での仕事は朝が早く早朝から仕事へ行き、昼食を食べに寮に戻ってきて、少し休憩をしたらまた夕方から夜遅くまで仕事に出かけていくのが、何日も続くこともあります。

しかし、彼らの働きぶりはとても素晴らしく、旅館のスタッフ、旅館のお客様からも一生懸命さが伝わり、早くも好評を得られまして、8月18日の北日本新聞(*)には顔写真つきで大きく掲載されました。

(続く)

* 宇奈月温泉の外国インターン生、接客好評 笑顔や懸命さが心打つ (北日本新聞)

<http://headlines.yahoo.co.jp/>

hl?a=20160818-00059733-kitanihon-116



現代の若者とストレスに対する一考察

キャリアコンサルタント 松居和世

サポステには、頑張りたいけど出来ない、何をしてもうまくいかない、自信が無い、他者とのコミュニケーションがうまくとれない等悩んでいる若者が多く来られます。

これは、他者の評価から生まれる感情ではないかと思えます。

その様な若者を支援していく中で大切なのは、「周囲が困る、困っている」→「だからどうしていくか」ではなく、「どうすれば目の前のこの人が元気になるか」という所だと思えます。

相談者本人の弱さ(weakness)や問題(problem)に目を向けるのではなく、その人の持つ長所、才能、良さ、相談者本人が元来持っている強み(strengths)に着目し尊重する事が大切であるのではないかと思います。

本人の頑張りを認めてあげる事が大切なんですね。

では認めてあげるとはどのような事でしょう？

次の様な場合、どこに視点を置き、どのような関わり方をしますか？

- ① 出社拒否傾向のある学生が朝、アルバイトに行こうと早めに起床し準備したが、出社出来なかった。
- ② 出社拒否傾向のある学生が朝、アルバイトに行こうと早めに起床し準備したが、出社出来なかった。

この例ですが、ウィークネスの視点で見ると①になります。

ストレングスの視点で見ると②になるのが分かると思います。

出社出来なかった事ではなく、「早めに起床し準備し

た」という所にその人のストレングスがあるのです。

この様に視点を変えて見る事によってアプローチ方法も変わります。

何をどのように頑張るかはその人のもつ特性によって異なります。

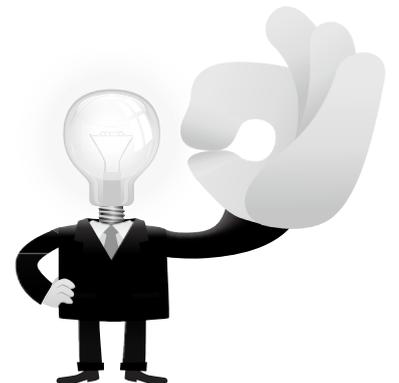
本当の強みは頑張ってる人並みに出来るようになる事ではなく、自分に合った能力で成果を出すことだと思っています。

不得意な部分や苦手な部分を克服しなければならない方法では、そこにエネルギーを使い過ぎてしまいストレスを貯めるばかりになり期待される成果を発揮出来なくなります。

サポステでは、それぞれの強みを見過ごすことなく、それを伸ばすような相談者本人の主体性を尊重した支援と環境づくりを行って行きたいと思っています。

ストレスが高いと動けない、でも低いと活動できるのであれば、ちょっと勇気を出せば出来る事をみつけ、小さな階段から小さな自信を付け一緒に頑張っていきたいと思っています。

目の前の事から一つずつ(^)/



横浜ばらの会へのお誘い

横浜ばらの会広報 大竹信子

横浜ばらの会が、今年5月11日にKHJ全国ひきこもり家族会連合会横浜支部として正式に承認されてから5ヶ月が経ちます。その間に、2名の方(家族)が新しく入会されました。

私達ばらの会は、NPO教育研究所でカウンセリングを受けていた親たちが中心となり、代表の牟田武生先生のお力添えの元、家族会として新たに立ち上げた「ひきこもり当事者とその家族による家族会」です。

月に1度の定例会に合わせて、9月からは「心の学習会」を始めました。

この学習会では、「ファシリテーター(調整役・引き出し役)としての家族の役割」の大切さを、牟田先生にご指導いただき大変好評です！

入会前の見学も、受け付けております。

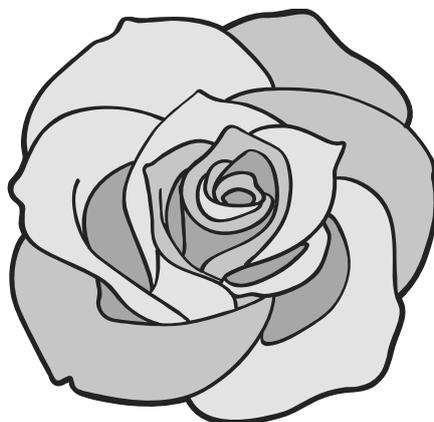
また、青年会員による当事者の会では、固定観念にとらわれない新しい発想で、今後どのように社会と関わり、希望をもって生きていくかを、ゆっくり静かに考えていきます。一度、見学にいらっしゃいませんか？

11月20日(日)には、池田佳世氏(現KHJ名誉会長・理事)による「ばらの会発足記念講演会」を開催します！(同日の午前に、同場所で定例会をしています。)ふるってご参加ください！！

ばらの会への入会案内、定例会・学習会、当事者の会の日程、講演会の詳細・参加申込み等は、横浜ばらの会ホームページでご確認ください。

<http://yokohama-bara.com/>

このホームページは、青年会員(当事者)の方々が作成しました。ステキでしょう！？今後の運営にも携わっていただくことになっています。



ニート甲子園大会

宇奈月自立塾 寮長 牟田光生

つい先日の10月6日に第8回秋のニート甲子園大会が開催されました！

今回は5日～6日の夜中に台風18号が日本海を横切り大会開催が危ぶまれました。

移動困難の判断もあり、近年の覇者愛知の「北斗寮」さんが来られないアクシデントもありましたが、7団体約100人強が集まり小雨も上がる勢いで熱戦を繰り広げました。

参加団体さんは

大阪・フェルマータさん

石川・ワンネススクールさん

富山・富山ダルクさん、富山サポステさん、高岡サポステさん、はぐれ雲さん、我々教育研究所と星槎国際高校の先生も見に来られました。

ほぼ総当たりの1チーム5、6試合で優勝は…

1位 はぐれ雲 4勝1分

2位 宇奈月自立塾 4勝1敗

3位 富山ダルク 2勝2分1敗

となりました！

われわれも優勝旗を目指していたのですが…残念！

最近シルバーコレクター気味ですが、なんとか第9回目の春は優勝目指したいと思います！！

色々な団体のスタッフ、利用者共に熱く熱くなれた1日でした！



牟田武生理事長のプログラム等のご案内

● カウンセリング

横浜では土、日を中心に行っておりますがウィークデーでも都合がつけばやっております。

但し、要予約、メールでお問い合わせください。

1時間15,000円(会員10,000円)、1時間半18,000円(会員13,000円)。

富山では月1回、宇奈月自立塾(宇奈月温泉)で行っております。料金は横浜と同じです。

また、全国各地で行われる講演や研修の際に不定期に行っております。

メール相談は会員のみ。原則無料ですが、ご寄付お願いいたします。

詳しくはお問い合わせください。

● 講演

教育委員会・児童民生委員・親の会・私立学校連合会・PTA・福祉関係等、様々なところで研修・講演も行っております。また、マスコミ関係の研修・番組企画・企画相談等もやっております。研修会の企画立案、コーディネートもご相談ください。(有料)

● 留学&海外遊学・就労の会

● 価値観を変える海外旅行の会

(自分探しの旅、認知行動療法の応用)

詳細が決まりましたら、教研ホームページでお知らせします。

● 宇奈月温泉で

カウンセリングやアウトリーチの他に、当事者・若者短期合宿を行います。

詳しくは宇奈月自立塾にお尋ねください。

ゲストルーム等あり、宿泊も可能です。(会員割引あり)



NPO 会員年会費のお願い

私たちの様々な活動は、活動から得られる資金と会員の皆様から得られる会費、それと寄付で支えられております。

NPO会員年会費は1口5,000円から何口でもお申込みいただけます。年会費はお支払いいただいた日から1年間有効です。継続してご支援ご協力していただけます際は、有効期限が切れる前に年会費をお振込みください。

● 会員特典

- 定期刊行物の送付
- カウンセリングの割引
- 教研関連書籍の割引
- お母さんたちのミニ図書館
- お母さんたちのおしゃべり会への参加
- 研修・見学時に教研所有のAHEビルに、一泊朝食付きを御一人様4,000円(寄付扱)
- 各種検査の実施(有料)
- 宿泊研修、就労体験への参加(有料)
- スーパーバイズ・研修(団体会員向け・有料)

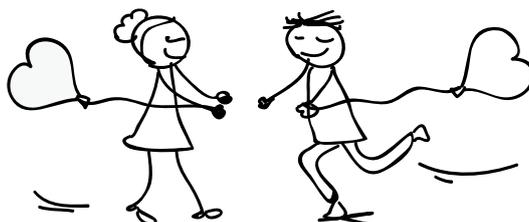
● 年会費

個人会員	団体会員(法人向け)
一口5,000円 ※一口からお申し込み頂けます	一口5,000円 ※十口以上からお申し込み頂けます
内訳	
● 通信料:2,000円	
● 寄付扱:残高	

- 年会費有効期限は、お振込みをいただいた日から1年となります。
- 継続してご支持・ご支援して頂けます方は、有効期限内に年会費をお振込みいただきますようお願いいたします。

● 会費納入口座

- 横浜銀行 上永谷支店(店番号323) 普通口座 1442815
口座名義「特定非営利活動法人 教育研究所 理事長 牟田武生」
- 郵便局・ゆうちょ銀行 口座番号 00230-9-112182
口座名義「特定非営利活動法人 教育研究所」



編集後記

山形県米沢市で開かれた全国規模のひきこもりの大会で、基調講演者として、私の師匠である、いじめ・不登校問題の権威である森田洋司先生(大阪市立大学名誉教授)にお会いできた。25年ほど前から先生は不登校問題調査研究の文科省の国の座長だった。研究員だった私に不登校問題は必ず、ホームレス問題にいずれ直結すると仰られた。その当時、私はなんのこともやらさっぱりわからなかった。そして、9月某日、先生を米沢駅にお迎えして、開口一番、25年後の今日、先生の言われた通りの現象が起きつつありますねと言った。やはり、当たりつつありますね。社会学はこれから起る問題を社会科学にそって考える学問ですからねと謙虚に言われる。やはり、一流の学者は凄いものである。(ム)

正直、この秋、希望者する当事者を連れて、カナダ・バンクーバーで海外で行う認知行動療法を行う予定であった。しかし、5月末のスペイン出張以来、体調というか、自信が喪失したのか、長旅に少し拒絶反応がある。自分ではもう少し、休養が取れば、また、以前のようにとまでいかないが回復すると信じている。自分をこの旅を通して変えたいと願っていた参加希望者には、大変申し訳ないことをした。(ム)

最近言われている「非認知能力」という言葉があり、本稿でも述べたとおり様々な評価能力があり、最近色々調べている。簡単に乱暴な事を言うと、社会的なタフさが求められている。あきらめないうで粘り強くやり抜く力、それを愚直に与えられた事を守るのではなく、自分自身で意思意見を持ちながら信念にそって行っていく。それらが必要であると。

技術がどんどん進化した機械一つ一つにPCが入る時代になってきた。IoT化は避けられない。ライバルは人間だけでは無い。すごい時代が来るだろう。その波に呑まれないようスキルアップしていかなければならない。完全に整備されればベーシックインカムで生きて行けるだろうが、まだそこまでは先の話だ。社会が怖い、無気力、色々あるだろう。ただ、自己肯定観を獲得し非認知能力を高めて行けば社会は楽しめる物であると思っている。

自分自身を殻に閉ざさないで何でも楽しめるような基礎的な能力こそ、「自己肯定観」であり「非認知能力」であると思う。それらが備わっている人が社会的に調子を崩した時「相談」だけでなんとかなる人だ。他の人は自分の殻を壊し、自分を再構築する為にも合宿支援は有効な手立てだと考えている。それらを「共同生活型自立支援機構」で調査し、エビデンスを確立していきたい。我々もIoT化のスピードに負けてはならない！新時代はすぐそこまで来ている。(寮長)

